

現庁舎の利活用について ～あったらいいなこんな場所～ 会議概要

【開催日時】	平成29年4月3日	午後1時30分～午後3時10分
【開催場所】	ハイトピア伊賀3階	ホールA・B
【参加者数】	68名	
【出席者】	伊賀市長	岡本 栄（冒頭のみ）
	伊賀市副市長	大森 秀俊（冒頭のみ）
	産業振興部長	尾登 誠
	産業振興部次長	東 弘久（進行）
	産業振興部中心市街地推進課長	堀川 敬二（説明）
	教育委員会上野図書館長	西尾 育夫
	前教育委員会上野図書館長	清水 由美
	企画振興部文化交流課長	滝川 博美
【配布資料】	資料1 現庁舎の活用案について ～あったらいいなこんな場所～	
	資料2 賑わい創出事業スケジュール（修正案）	

【説明概要】 産業振興部中心市街地推進課長 堀川から資料1及び資料2に基づき市（行政）の調整案について説明を行った。

- ・ 1-1 伊賀市は将来的に人口減少、少子高齢化、若者（生産年齢人口）の減少による税収の減が危惧される。これは福祉、教育、インフラなどに影響する。
- ・ 1-2 伊賀市では「来たい、住みたい、住み続けたい“伊賀”づくり」を目指し、ひと、まち、しごとの創生に取り組み、現庁舎の活用はこれらすべての関わる重要な施策となる。
- ・ 2 これまでの経過はスライドのとおり。今回の説明会で、市民に市（行政）の調整案を説明し、意見を伺いたいと考えている。
- ・ 3-1 市では7分の7、1年、365日、朝から夜までの賑わいを目指している。休日と平日の賑わいが融合する施設を作ることを実現したいと考えている。
- ・ 3-2 7分の7の賑わいを目指すため、6つの機能を複合施設として整備したいと考えている。
- ・ 4-1 6つの機能のうち、図書館を核としたいが、現在の図書館は課題が多いため滞在型の図書館が求められており、実際の活用案についてドコモモジャパンからの提案もいただいている。（模型は南庁舎2階に展示）
- ・ 4-2 図書館は、他の観光施設に比べると、休日と平日の入館者の差が小さい。近年リニューアルされる図書館は様々なニーズに応えられるようになっており、他の機能との連携も期待される。
- ・ 4-3 他の図書館のリニューアル事例を提示。
- ・ 4-4 三重大学の国際忍者研究センターの導入を検討している。世界で唯一の施設

- となり、日本中、世界中から人が集まることを期待している。
- ・ 4-5 大手コーヒーチェーンから入居したいとの希望を受けている。ただし、南庁舎が保存されることが前提となる。
 - ・ 4-6 その他の機能について紹介。これらが連携するために観光案内や情報発信も充実させ、周辺地域への誘導も図りたい。
 - ・ 5-1 必要な機能のための面積を提示。合計6,000㎡程度必要と想定しており、現庁舎(5,927㎡)のリニューアルで対応できると考えている。
 - ・ 6 市(行政)の調整案のまとめを紹介。
 - ・ 7-1 リノベーションのメリットをまとめている。費用が安価であること、耐震・耐久性が第三者機関により検証されていることを紹介。
 - ・ 7-2 南庁舎の建築様式(モダニズム建築)や、設計者坂倉準三に関する評価が高まっていることを紹介。
 - ・ 7-3 7-2と同様。
 - ・ 7-4 各機能の来館予想の積み上げにより、現在より約26万人の賑わい増加が見込まれる。
 - ・ 7-5 来館予想に基づき、経済効果を試算している。市(行政)の調整案の場合、31億円の経済効果が見込まれ、波及効果も期待される。
 - ・ 8-1 市(行政)の調整案を採用するまでに提案された案の比較をしている。
 - ・ 9-1 8-1の各案について、項目別に比較している。

(スケジュールについて)

財源確保のために合併特例債を活用したいと考えているが、市(行政)の調整案は活用可能であるため◎、賑わい協主案は工期が間に合わず×、議会案は工期は間に合うが、解体・新築の場合埋蔵文化財調査が必要となる可能性があることから△としている。

(来館予想について)

7-4の資料に基づき来館予想を比較しているが、市(行政)の調整案については、大手コーヒーチェーンによる集客でさらに増加する可能性があることから◎としている。

(経済効果について)

7-5に基づき経済効果を比較しているが、三重大学、大手コーヒーチェーンによる集客でさらに増加する可能性があることから◎としている。

(三重大学について)

6,000㎡の規模が確保できなければ入居スペースがないため、議会案は×としている。

(大手コーヒーチェーンについて)

入居の条件が南庁舎の保存であることから、市(行政)の調整案のみが◎となる。

- ・ 9-2 9-1の続き

(文化的価値について)

南庁舎が解体されると文化的価値が喪失されるため、市(行政)の調整案のみが◎となる。

(整備費用について)

費用の比較をしているが、整備費に対して交付金や合併特例債を勘案すると、市(行政)の調整案が最も安価に整備することができ、市民1人あたりの負担額も小さくなる。

また、費用対効果については、仮に1億円の投資をした場合、最も大きい効果があるのが市(行政)の調整案となる。

(優位性について)

これらのことを総合的に勘案して、市(行政)の調整案が最も優位性が高いと言えることから、この案を提案している。

・最後に 平成29年2月に議会に提示したスケジュールを提示している。合併特例債の活用を見込むと、非常に厳しい状況となっており、今後は「基本計画」「基本設計」「実施設計」の一括発注などにより工期の短縮に努め、間に合わせたい。

【質疑応答】 説明に対して参加者から質疑を求め、担当者が回答した。

- ★参加者 4-3で図書館のリニューアル事例が示されているが、それぞれ完成した時期は。新しい施設は入館者も増えるので知りたい。
- 清水 桑名市立図書館は平成16年10月1日、おおぶ文化の杜図書館が平成26年7月1日、海老名市立中央図書館が平成27年10月1日、明石市立図書館が平成29年1月となっている。
- ★参加者 三重大学の伊賀サテライトについて、これにより来館者が増えるという根拠を示してほしい。
- 堀川 国際忍者研究センターには、日本中、世界中から人が集まることになる。伊賀市は忍者市宣言もしており、忍者に関する発信を行うチャンスと考えている。三重大学の研究成果の発表の場として、三重県立博物館で「忍者ってナンジャ」という企画展を実施したが、たくさんの方が集まった例がある。
- ★参加者 他の地区には立派な美術館がたくさんあるので、負けられないような美術館を整備してほしい。
- 滝川 新しい建物を整備することは財政的にも難しい。リニューアルされる施設の中に美術展示に関する機能も導入するため、伊賀出身の作家や、市民の作品などを展示したい。
- ★参加者 55万人の来館を予想しているが、駐車場についてどう考えるか。無料にするのか、有料にするのか。どういう手法で管理運営を行うのか。伊賀市が観光立市を掲げているなら、観光客にとってマイナスになるようなこ

とがないようにすべき。

清水 他地区で図書館が複合施設に入居している例も増えており、様々な運用がある。図書館は原則として無料で利用できる施設であるため、時間を決めて駐車料金を減免するなどの措置を検討したい。

堀川 参考として、ハイトピア伊賀には年間56万人が来館しているが、90台の駐車場で15回転/日ぐらいして、譲り合い、効率よく使われている。新たな施設のニーズを把握し、今後駐車場の運営方法を検討したい。

★参加者 7分の7の賑わいについて提案があったが、図書館がメインとなると市民中心の賑わいになってしまうのではないかと。

観光をポイントとするなら、1階に図書館を配置してしまうと観光客がっかりするのではないかと。

意見のため回答なし

★参加者 説明の内容はいい部分ばかりなので、リスクについて説明願いたい。

堀川 現時点の一番のリスクはスケジュールが間に合うのかということ。また駐車場やメンテナンスの面、運営方法など未検討の部分があることがリスクと考えている。

★参加者 南庁舎のリノベーションには賛成するが、想定どおり、想定以上の経済効果を目指すなら、周辺の盛り上がりは不可欠ではないかと。

現状では近隣地域にそのような盛り上がり、気運が醸成できているとは感じないので、ソフト面の仕掛け作りについても検討してほしい。

堀川 伊賀市に来られた方が具体的に何にいくら使っているかということについては、三重県が調査を行った報告書がある。

経済効果を達成するか、増やすかは実際に商売をされている方の努力にかかっていると考えている。

★参加者 リスクの質問に補足すると、まちの人がやるべきことを努力し、行政がそのベースを作るが、まちの人がどれだけがんばってもできないことがあった場合のことを考えてほしい。

新しい図書館に3,000㎡必要とあるが、現図書館はどれぐらいの規模があるか。

埋蔵文化財調査の期間はどの程度を見込んでいるのか。

清水 現在の図書館は1,678㎡。

堀川 埋蔵文化財調査については、出土する遺構、痕跡によって変わってくるので具体的な期間は現時点ではわからない。

尾登 リスクについて、今回はハード整備を中心とした説明を行っているが、ソフト面についても必要と考えている。市民、上野商工会議所、伊賀上野観光協会などと連携して仕掛け作りをしていきたい。

★参加者 伊賀市の図書館は110年の歴史があり、県内で最も古い。そこには貴重な文献もあるが、新しい施設できちんと保存し、必要な展示ができるのか。

国際忍者研究センターについて、伊賀流忍者博物館との連携はどう考えているか。

清水 南庁舎への移転はチャンスと考えている。貴重資料の展示に関してはデジタルアーカイブなど新たな技術もできているので、手法についても検討も行いたい。

堀川 三重大学の誘致については、伊賀上野観光協会からの要望もあることから、今後も調整しながら進めたい。お互いの施設はバッティングすることなく、高めあうことができると考えている。

★参加者 図書館の利用者であり、お話ボランティアも行っているが、図書館の使いにくさは切実。

詠み聞かせに来る母親に聞くと、近隣にそのような場所がないため、檀原や水口の図書館まで出向いているとのこと。子連れでも気軽に利用できる滞在型の図書館が早くできてほしい。

意見のため回答なし